

高知のボランティアを考える

ボランティアへの提言



山本 浩志氏

昨年の阪神大震災以来ボランティアに対する関心が高まりました。

またボランティアに参加する人も多くなってきました。そこで

南国中央病院長・山本浩志氏にまた違った角度からボランティアへの考え方をお伺いしました。

医療法人山本会理事長 山本浩志氏
救急病院「南国中央病院」
老人保健施設「夢の里」
訪問看護ステーション「南国」
在宅介護支援センター「まほろば」
ボランティア「命のベンダント」

ボランティアの意味とその精神

——最近ボランティアという言葉をよく耳にしますが、ボランティアの意味は何ですか。

ボランティアは馬志家、奉仕者などと訳され、社会事業や社会福祉に「自発的」に「無償」で参加する者です。その精神はキリスト教的な愛善、博愛の精神とも結びついています。またそういう言葉が使われています。それは19世紀末のイギリスやアメリカで起った、教会や私的慈善団体の貧困者の教育が始まります。その精神はキリスト教的な精神が、ボランティアを生んだ土壌とも言えます。

——わが国ではボランティアの土壤と言いますが、伝統といつものがあります。

ボランティアを始めるあたりでは、どういう心構えで臨めばよいでしょう。

ボランティアと一口にいってもその活動範囲は多岐にわたります。またボランティアに対する考え方や参考する動機は、人それぞれによって違います。しかし、私はボランティアとは、一言でいえば自己犠牲と考えます。自己犠牲だから尊く、価値があると思います。

この点について、映画監督の大林宣彦氏が、「友愛」という雑誌の中で、

阪神大震災のチャリティーについて述

べられていますので、その概略を引用させてもらいます。

「先日、阪神大震災救援のための

あるチャリティーに出席したときのことです。義援金を寄せてくる人

たちの列に、小学校に上がるかあが

らなかくらの子供が一人、きれい

に折りたたんだ円札を一枚もつて

並んでいました。その子供が募金箱に

お金を入れる番になりました。

しばらく箱を見ていて、思つた

ようにお金を離した瞬間、私と目が

合ひ、突然、それをかき出したのです。

『神戸のお友達のことを考えて悲し

くなかった』などといふ聞いたの

ですが、少年は頭を振るのです。

『じやあ、どうしたの』と聞くと、

『これで、なんとなにが買えなくな

っちゃった』などといふ聞いたの

が、少年は頭を振るのです。

子にとっては宝物のようなものな

であります。きつと、大切にお小遣いを

ため、きょうこそはそれを買おうと

思つたのでしようが、列のなかにま

さがれ込んでしまい、みんなと一緒にお

金を入れたけど、欲しいものが買え

なくなつて、悲しくなつてしまつたとい

うことでしょう。

でも、これが本当の義援金のあり

方だと思います。私たちがチャリ

ティーをやる場合、どこかある種の

余裕のなかでやっています。もちろ

んお互いが助け合つことは素晴らしいことですが、同時にどこかでい

いことをしているんだ』という気持ち

もつっています。ところが、あの少年

は、本当に喜んでいます。

ボランティアは楽しいから楽し

ます。

——ボランティア活動は楽しみでも

書びでもなく、自己犠牲ということに

なります。それに参加する人は少な

くなると思いますが。

ボランティアは楽しいから楽し

ます。

人間形成のための修行と思いたい

——新聞などを見ていますと、初めてボランティアに参加した人々が、感想で、「楽しかった」「自分の喜びである」「心が豊かになった」というようにボランティアを肯定的にとらえていますが、これはどう思われますか。

確かに多くの人はボランティアは、樂しかったと肯定的に答えていました。

基督教でも仏教でも、その道

を生きるには、それぞれの守るべき

行いや、おきてがあります。断食や山

ごもりなど修行といふ過酷なもの

もあります。それによって、人は自分

を磨き、宗教的な生き方へと自分を

高めることができます。

またうち奉公にしろ、すし屋の見

習いにしろ、その場合でもわれわれは

「修行」という言葉を使いますが、修

うだから) 参加するというのは、ほと

んどの場合、裏切られるか、挫折す

ると思います。実際しんどいのです

から。しかし挫折しないでボランティ

ア活動を長く続ける、その中に楽しみ

や喜びを見たせる人は、私は心から尊敬します。そういう人たちには

わざ選ばれた人たちであり、心の中

に宗教的な生き方を持つている人だ

と言えます。

しかし多くの人にとってはそれは

いつまでも、つらいのは当然

だと思います。

しかし多くの人にとってはそれは

いつまでも悲しい思いをした人が

わざ選ばれた人たちであります。

つまり、つまり、心の痛みを味わつた日でした。しかし、この少年が

年を重ね、理解力も深まって、「自分

よりもっと悲しい思いをした人が

わざ選ばれた人たちであります。

つまり、つまり、心の痛みを味わつた

とき、つまり、心の痛みを分かち合

うことによって、周囲の人たちの心の

痛みが理解できるようになつたとき、

それが、それが、心の痛みを味わつた

とき、つまり、心の痛みを味わつた

とき、つまり、心の痛みを味わつた